

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷 ● 京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

No.82
8月号

2012年8月10日発行

地域の力に見守られ
元気に登校



交通死亡事故0を目指して

特集

交通安全



今月の表紙

子どもたちの登校時の交通事故防止のため、交差点などで交通指導を行う交通指導員。交通事故をなくすため町内ではさまざまな取り組みが行われています。(関連記事を2ページに掲載)

特集



交通死亡事故0を目指して

交通安全

子どもたちを事故から守る

交通安全対策実務協議を開催

府下で交通死亡事故が多発している状況を受け、府内の各市町村および教育委員会が通学路の危険箇所を確認。町内では五月二十三日、京丹波町役場において第一回目の京丹波町交通安全対策実務協議を実施しました。

この会議には、町、町教育委員会、道路管理者(国や府など)、交通管理者(南丹警察署)が参加。亀岡市の事故後に行った調査により把握している道路の危険箇所やその対応状況などの情報を共有することで、事故を未然に防ぐことを目的に開催しました。当日は、町教育委員会が町内小・中学校と幼稚園を通じて行った調査の結果、歩道やガードレールが必要と思われる箇所などを報告しました。

道路管理者である国土交通省の京都および福知山両事務所は、それぞれの管内で実施した通学路の調査において早急に対応が必要と判断した六十二箇所について、八月中に対応予定としていることを報告しました。

現地調査を実施

同実務協議では、報告があった危険箇所



現地確認を行う担当者ら(実勢地内)

所の現地調査を実施することとし、六月二十五日と七月十七日に国道、府道、町道の現地調査を行いました。七月十七日に実施した町道の現地調査では南丹警察署、町教育委員会、道路管理者である町などの担当者十四人が参加。報告のあった危険箇所や修繕が必要と思われる二十四ヶ所の調査を行いました。

調査箇所の一つである実勢地内の町道では、道路の幅が狭くなる箇所に減速を促す看板の設置要望が出ている場所を確認。必要性や対応方法などを協議しました。

今回現地確認を行った場所は、道路管理者である国、府、町などにおいてさらに改修の必要性や緊急性を検討し随時対応していきます。

四月二十三日に亀岡市篠町の府道で発生した登校中の児童と保護者、三人の貴い命が失われた交通死亡事故。四月十二日に発生した京都市内の祇園で発生した事故とともに、運転者の責任や技術、マナーなどが問われています。

京丹波町内を通る三つの国道では、町外から通過する車も多く、子どもや高齢者などの歩行者も自ら身を守る必要があります。

今回は地域の子どもの安全を交通事故から守るための取り組みや、日頃から交通安全の取り組みに尽力されている方などを紹介します。

NO.82 CONTENTS

- 2 **特集** 交通死亡事故0を目指して
交通安全
- 6 行政Information
●あつらいいなこんな食べものアイデアコンテスト
「食の京丹波」をイメージする加工品、料理のアイデアイラストを募集しています
- 8 Dr's Message いきいき健康術
- 9 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2012
 - 児童ら共に学びあう
 - 小・高・大連携パートナーズスクール事業
 - 地域づくりの意見交換
 - 命の里づくり交流会
 - チームプレイで汗流す
 - 第七回京丹波町ソフトバレーボール大会
 - 豊かな実りが支援の力に
 - 町内スポーツ少年団双葉町支援ジャガイモ収穫
 - 尊重しあえる社会を目指して
 - きらりセミナーI
 - 人権思想の啓発を依頼
 - 人権擁護委員委嘱状伝達式・感謝状贈呈式
 - 住民目線の町政推進へ
 - 町長と語るつどい
 - 豊作と地域活性化願い定植
 - 上和知中部村おこし委員会黒大豆苗定植
 - 地域の絆を見直す機会に
 - 映画「ふるさとがえり」心をつなぐ上映会
 - 地域の美化に貢献
 - 清掃ボランティア活動
 - 健康づくりのきっかけに
 - 健康ウォーキング講座



地域で行われる見守り活動

保護者らによる見守り運動

下山地内の九区を校区とする下山小学校では、継続的な取り組みとして以前からPTAによる「あいさつ運動」が展開されています。

このあいさつ運動は保護者が校区内の通学路七ヶ所に定期的にとって、子どもたちに声掛けを行うことであいさつの習慣づけを行うとともに、登校時の見守りを行うもの。その日の様子で気になったことなどを「あいさつ運動*当番日誌」に記録して次の当番に引き継ぐことで、保護者らが



保護者らが記録する「あいさつ運動*当番日誌」

情報を共有し継続して子どもたちの日常を把握できる活動を行っています。

また、この地域では個人でも子どもたちの見守り活動を実施。嶋田正市さんは平成八年に南丹警察署から防犯推進委員の委嘱を受け、危険箇所の点検や青色回転灯を設置した自家用車による防犯パトロールなど、地域の防犯に関する活動に取り組む傍ら、五年前から子どもたちの登校時の見守り活動を行っています。

地域の高齢者らによる見守り運動

校区内にあるグリーンハイイツ区では高齢者らによる福寿会(山上幸二会長)が子どもの見守り活動を行っています。

福寿会では、平成十六年に発生した下校時の児童が襲われた事件を契機に、下校時の「迎えボランティア」を開始。平成十八年には「子ども・地域安全見守り隊」を結成。現在では約三十人の隊員が三人ずつ下校時の見守りを行っています。同会では今後も地域で共に暮らす子どもたちが、安全に登校できるよう継続して取り組んでいくこととしています。



子どもたちに声をかける嶋田さん(下山)

インタビュー



嶋田正市さん(下山)

見守りを始めたきっかけは？

定年で退職して、何もせずに家にいてもしょうがないので何かをしようと思つて始めました。子どもたちといると元気がもたえるし、毎日見守りをすることでほけ防止にもなると思つています。

具体的にはどのような活動を？

下校時は福寿会の方が見守りをされているので、私は毎朝子どもたちが登校する頃に見守り活動を行っています。

見守りや地域の巡回などを行っています。思つては？

例えば下山駅から国道まで降りてくる道は、狭いので怖いと感じています。

子どもたちの中には、いつも私が立つ場所を通る時間を当てあつているようで、私に時間を聞いてくる子がいます。そういう会話のやりとりも楽しいので、できる限りは続けていきたいです。



町内の交通安全に取り組む方たち

南丹船井交通安全協会 京丹波支部

南丹船井交通安全協会京丹波支部は、二十一人の役員と各地区から選出された評議員で組織。交通安全運動期間などに交通量の多い国道沿いで街頭啓発活動を行ったり、スーパーなどが集まる場所での啓発チラシを配布するほか、横断幕や各地区内でのほりの掲出などに取り組んでいます。



南丹船井交通安全協会京丹波支部長 上田次雄さん(妙楽寺)

交通安全協会では、街頭啓発などの取り組みを通じて運転者などに交通安全を呼びかけ、皆さんが意識を高めてもらうよう取り組んでいます。啓発活動などで街頭に立つと、シートベルトをしていない運転者はほとんど見なくなりましたが、助手席

の人でシートベルトを着用していない人や、運転中に携帯電話を使用している人を見かけることもありません。今後も交通事故防止のため、活発な啓発活動を行っていききたいと思います。

また、今年に入り水原地内では国道を横断中の高齢者が亡くなるという事故も発生しており、高齢者を事故から守る取り組みとして、京都府警察が同地区で実施されている高齢者交通事故防止モデル地区事業にも支部役員が推進委員として参画しています。

このような取り組みを通して、交通事故のない安心・安全な京丹波町となることを願っています。

交通指導員

交通指導員は、町が条例に基づき町内での交通事故を防止し、交通安全思想の啓発を目的に委嘱。現在二十九人の指導員の皆さんが月二回、小学生の登校時に交通事故にあわないよう交差点などで交通整理したり、交通安全運動期間中には街頭啓発を行うことで、歩行者を車から守り、事故のない安心して暮らせる町づくりに取り組んでいます。



交通指導委員長 片山友三さん(中)

自分たちもあのような事故が起こらないようしっかりと子どもたちを守つていかなければならないと思つています。

また朝の定例指導では、子どもたちの安全を守ることは当然ですが、大きな声で子どもたちにあいさつなどの声かけをするよう心がけています。これは、交通安全以外のことも子どもたちに教えられたらと考えて行っています。

交通指導委員は、毎月一日と十五日の小学生の登校時に行う定例指導や各地域で行われるイベントなどでの交通整理などを行っています。

亀岡市で起こった事故を聞き、私も同じくらいの子どまがいますし、

町内各小学校では、子どもたちが安全に登下校できるよう保護者や地域住民などによる見守り活動などが展開されています。その中でも今回は下山小学校区内での取り組みをお伝えします。

あったらいいなこんな食べもの

アイデア コンテスト



京丹波町
食のキャラクター
あじむ
味夢くん

「食の京丹波」をイメージする加工品、料理のアイデアイラストを募集しています。

私たちが住む京丹波町は、黒大豆、小豆、松茸、栗、ハタケシメジのほか、新鮮な地元野菜などの産地であり、「食の京丹波」として広く認知されています。

今回、皆さんからの地域特産品を利用した新しい加工品、料理などのアイデアを募集し、「食の京丹波」を代表する新たな加工品、料理づくりを推進します。

つきましては、次のとおりアイデアを募集していますので、是非、新たな発想で京丹波の魅力を描きご応募ください。

入賞作品は須知高校製造の加工品セットを贈呈!

京丹波の食材(特産品など)の例

- 丹波黒大豆
- 瑞穂大納言小豆
- 丹波まつたけ
- みず菜
- 伏見甘長とうがらし
- しいたけ
- 瑞穂そば
- 山菜
- 京都ぼーく
- 牛乳
- 丹波ワイン
- 紫ずきん(黒大豆枝豆)
- 丹波くり
- ほうれん草
- 丹波高原ねぎ
- 京かんざし(にんじん)
- ハタケシメジ
- 地元季節野菜
- 丹波牛
- 鮎
- たまご
- 長老(日本酒)など

※あくまで例です。皆さんが地元食材と考えるものを使ってアイデアをお寄せください。



主催

京都府立須知高等学校、京丹波町

募集内容

地域で作られている食材を使った京丹波らしい加工品や料理のアイデアを募集します。入賞作品はレシピづくりや町CATVなどにより地域に根付くように働きかけを行いますので、応募の際は次の点にご注意ください。

- 1 アイデアは完成イメージイラスト、作品名、作品の説明を応募用紙に記載してください。
- 2 京丹波の食材と思ふものを必ず1つ以上使用してください。
- 3 自作で未発表のものに限ります。
- 4 応募内容(個人情報を除く)の使用権および著作権は、全て須知高校および町産業振興課に帰属します。
- 5 このほか、詳細については町ホームページまたは役場などに設置している募集要項をご確認ください。

応募資格

小学生以上であればどなたでも応募できます。

応募締め切り

平成24年9月28日(金)

応募方法

応募用紙に必要事項を明記し、下記へ郵送または持参により応募してください。

応募用紙は、町および須知高校ホームページからダウンロードすることができます。また、役場本庁および各支所にも設置しています。

審査および表彰

- 1 審査委員会を設置し、京丹波らしさ、見た目、実際に作れるものか、などの視点で審査し、最優秀作品1点、優秀作品3点を選定します。
- 2 入賞作品と受賞者の氏名・住所(市町村名まで)は町および須知高校ホームページで発表します。また、平成24年11月18日(日)に丹波自然運動公園で開催予定の「京丹波●食の祭典2012」において、発表ならびに表彰状の伝達を行います。

応募・問い合わせ先

須知高等学校農業クラブ事務局
〒622-0231 京都府船井郡京丹波町豊田下川原166-1
電話 0771-82-1171 Fax 0771-82-0017
E-mail syuuchi-hs@kyoto-be.nr.jp

「京丹波●食の祭典2012」開催!

町の魅力である「食」をテーマに京丹波●食の祭典2012を開催します。
自然豊かな「食の宝庫」京丹波町で、秋の味覚を満喫してください。

- 【日程】 平成24年11月18日(日) 午前10時から
- 【会場】 丹波自然運動公園および須知高等学校
- 【内容】 コンテストの部、ステージの部、食の郷マルシェ、食の啓発コーナー、須知高校PRコーナー、文化PRコーナー など



昨年度の様子

Dr's Message
いきいき健康術 第60回

『蜂に刺されたら』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。
今回の担当は京丹波町病院外科部長の庄林智先生。蜂に刺された際の対処方法などのお話です。

現 在日本には大きく分けてミツバチ・足長バチ・スズメバチの三種類が生息しています。刺された時のそれぞれの症状と対処法を紹介いたします。

●ミツバチ
刺された時は痛みを伴いますが、痛みそのものはすぐに治まります。刺された患部に針が刺さって残っているのを抜きましょう。

●アシナガバチ
ミツバチに刺された時よりも大きな痛みと、大きく赤い腫れが症状として残ります。また重症の場合、じんましん・発熱・嘔吐などの症状がみられます。

●スズメバチ
激痛が走り患部から広範囲に赤く腫れます。重症の場合、発熱、嘔吐、呼吸困難、肝機能障害が起ります。

応急処置としては、どの蜂に襲われた時でも近くに巣があるかもしれないので、早急にその場所を離れることが先決です。そして刺された箇所の周囲を強くつまんで毒を出すか、吸い出しましょう。吸い出した毒は吐き出してください。そして流水で洗い冷やしましょう。蜂に刺されたら小便(アンモニア)をかけると良いと聞いたことがあるかもしれませんが、これは俗説であり効果はありません。



外科部長 庄林 智 先生
(京丹波町病院)

刺された蜂によつて症状は違いますが、どの蜂に刺されてもアナフィラキシーショックという呼吸困難、血圧低下やけいれんなどの急激な全身アレルギー症状を起すことがあり、放置すると死に至ることがあるので、早急に病院に行き治療を受ける必要があります。スズメバチなどに刺されて一度でも蜂毒によるアレルギー反応を起こしたことがある人は、蜂に刺されないように注意することが大切です。そのような方で野山で作業をする機会が多い場合、万が一に備えて医療機関を受診し、アナフィラキシーの症状を緩和する自己注射用エピネフリン注射液(商品名エピペン)を常に携帯するのがよいでしょう。

京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
☎ 86-0220

児童ら共に学びあう

■小・高・大連携
パートナーズスクール事業

小・高・大連携。パートナーズスクール事業の第一回目が六月二十六日、須知高校で行われました。
この事業は、京都府が環境・食育校種間連携。パートナーズスクール事業として実施するもので、須知高校と京都大学大学院の生徒らが、それぞれの知識や技術を活用して町内の小学生と共に学ぶもの。今年度は丹波ひかり小学校の五年生がトウモロコシの栽培などを通して「環境」



モロコシの成長を楽しみにしています。

高校生の指導で種まきをする小学生(須知高校農場・豊田)

チームプレイで汗流す

■第七回京丹波町ソフトバレーボール大会

七月八日、丹波自然運動公園体育館で町体育協会主催のソフトバレーボール大会が開催されました。
今回の大会は、京都府民総合体育大会市町村対抗ソフトバレーボール競技京丹波町予選会を兼ねていることから、地域対抗の部十六チームのほか、府民総体予選会の部に三チームが参加。十九チームが五つのコートに分かれて熱戦を展開しました。
会場には参加者の家族などが応援に訪れ、相手コートから打ち込まれたボールをチームで回してスパイクを決めると、大きな歓声を上げていました。

府民総体予選会の部で優勝した蒲生野チームは、十月二十八日に亀岡総合運動公園で開催される府大会成年の部に出場。TAKENOUCHIチームが同大会壮年の部に出場します。

地域づくりの意見交換

■命の里づくり交流会

これからの地域づくりを考える機会として命の里づくり交流会が七月七日、町中央公民館で行われました。
この交流会は昨年度から始まり今回が二回目の開催。南丹地域で少子高齢化が進む地域の活性化を目指して取り組む団体の代表者約四十人が参加しました。
交流会には綾部市志賀郷町でIターン者の受け入れなどに取り組み「コブネット」代表井上吉夫さんがゲストとして参加。井上さんが中

心となつて取り組んでいる空き家を活用したIターン者の受け入れや、取り組みを通しての課題などを聞いた後、参加者らは六つのグループに分かれて意見交換を行いました。
参加者からは「Iターンを受け入れた場合、うまく地域になじんでもらえるか」など不安に思う声も出ていましたが、井上さんは「事前にしつかり話をして本當にこの地域で暮らしたいと思っているかなどを確認している」と、自分たちの取り組み方法を細かく説明していました。



活発な意見交換を行う参加者ら(町中央公民館・蒲生)



チームで連携してパスをまわす参加者(丹波自然運動公園体育館・曾根)

豊 かな実りが 支援の力に

■町内スポーツ少年団双葉町支援 ジャガイモ収穫

七月十四日、須知高校農場において町内スポーツ少年団に所属する小学生と中学生ら約百人によるジャガイモの収穫が行われました。

これは、東日本大震災で被災した本町の友好町である福島県双葉町の支援を目的に昨年に続いて実施しているもの。四月十四日に同少年団により植え付けが行われてから、各団が交代で草引き作業などを続け、今回の収穫となりました。

小学生らは植え付けの際にも指導を受けた社会教育委員の白樫貢さんから「ジャガイモが傷つかないように掘ってください。」と指導を受



協力してジャガイモを収穫する子どもたち (須知高校農場・豊田)

け、須知高校食品化学科の生徒らと協力してジャガイモの収穫を行いました。

収穫後は、同じく社会教育委員の澤井安子さんと春田千代美さんが須知高校の先生と協力して調理した「ふかしいも」をみんな揃って食べました。

今回収穫したジャガイモは、八月に避難中の双葉町の皆さんに届けられます。

人 権思想の啓発を依頼

■人権擁護委員委嘱状伝達式・感謝状贈呈式

人権擁護委員の委嘱状伝達式が七月三日、役場町長室で行われました。

今回の伝達式は六年三ヶ月間、委員を務められ退任された原澤淑子さん(高岡)に代わり、吉田和夫さん(蒲生)が委嘱されたことにより行

われたもの。式では京都地方法務局園部支局の田村支局長から吉田さんへ委嘱状の伝達と、退任された原澤さんに感謝状の贈呈が行われました。

この人権擁護委員制度は昭和二十三年に創設されたもので、法務大臣が全国で約一万四千人を委嘱。本町では今回委嘱された吉田さんを含め十一人が委員として、人権に関する相談

住 民目線の町政推進へ

■町長への語り

町長が町民の皆さんと膝を交えて語り合う町長と語るつどいが、六月二十九日の山村開発センター



村開発センターみずほを皮切りに町内二十二ヶ所が始まりました。

この取り組みは、町理事者などが町内各地の公民館などを訪れ、町の主要施

策や予算に関する説明を行い、町民の皆さんからの質問や意見などを聞き、今後の町政に反映させるために実施しているもの。初日となつたこの日は、同会場がある大朴区を含む七つの区などから四十三人が参加しました。

寺尾豊爾町長などが平成二十四年度事業概要などを説明した後、参加者からは小中学生の登下校中の安全対策などの質問が出ました。

町長と語るつどいは、九月六日まで開催していますので、会場へお越しいただき、町政に対して貴重なご意見などをお寄せください。

地 域の絆を見直す機会に

■映画「ふるさとがえり」心をつなぐ上映会

六月三十日、竹野基幹集落センターにおいて映画「ふるさとがえり」心をつなぐ上映会が開催されました。

この上映会は竹野地区区長会(西垣正則会長)と竹野地域活性化委員会(仮称)準備委員会(中西和之委員長)が、今後の竹野地域の活性化に向けて住民が考える機会として企画したもの。竹野地区の九つの

区から約二百人が参加しました。

この映画は平成十七年に六市町村が合併した岐阜県恵那市において、まちの形だけの合併でなく、市民の心と心の合併を目指した「えな心の合併プロジェクト」の取り組みにより制作されたもの。参加した住民は、消防団の活動などを通して描かれる「絆」で結ばれた地域の姿に見入っていました。

上映後にはこの映画を製作された林弘樹監督が、地域のつながりによつて賛同者が増え、映画が完成で

尊 重しあえる社会を目指して

■きらりセミナー

本年度第一回目のきらりセミナーが七月十四日、山村開発センターみずほ二階視聴覚研修室で開催されました。

きらりセミナーとは、町と町きらりネットワークの会(片山加代子会長)が主催する男女共同参画講座で年間二回開催。今回は町内から約八十人が参加しました。

セミナーでは、株式会社ウイメンズカウンセリング京都のフェミニストカウンセラー周藤由美子さんが「二人でがんばりすぎないために上手に自己表現して自分を大切に」をテーマに講演。周藤さんは、自らが今までに受けた母親関係や夫婦間の相談を例に「家族の間でもい



事例を交えて語りかける周藤さん (山村開発センターみずほ・大朴)

ろいろ感じることもありそれは健康なこと。感情を溜め込んで一気にぶつけると周りは受け止められないので、日常から少しずつ出したほうがいい。」と参加者に語りかけていました。

今回のセミナーは十月二十日に京都府と共催で開催予定です。

や普及啓発活動に取り組んでいます。委嘱状の伝達後、田村支局長は「委員の活躍などにより人権尊重思想は浸透してきた。しかしインターネットなどを利用した人権問題なども発生しており、人権思想の一層の普及に協力願います。」と、吉田さんの今後の活躍を期待してあいさつを述べました。



委嘱状の伝達を受ける吉田さん(役場町長室・蒲生)

豊 作と地域活性化願い定植

■上和中部村おこし委員会 黒大豆苗定植

六月二十三日、大迫地内のほ場で上和中部村おこし委員会(白樫貢会長)が黒大豆苗の定植を行いました。

今回の取り組みは、十月二十日頃に開催を予定している黒大豆枝豆の収穫祭に向けた取り組みで、今年で二回目。地域内でゲートボールやグラウンドゴルフをしているグループの会員などに参加を呼びかけたところ、約二十人の参加がありました。

会員らは、ほ場内の苗床からバケツなどに苗を入れ、畝に張られた紐



黒大豆の苗を植える参加者(大迫)

に合わせて植えていきました。白樫会長は、「若い人はどうしても仕事中心の生活にならざるをえないので、自分たちも地域をにぎやかにするために頑張りたい。」と、地域の活性化に意欲を見せていました。

人の動き

■民生児童委員
【新任】行仏・中村／三好 稔
【退任】三好久男

わたしたちの町	
人口	16,320(+3)
男	7,712(+1)
女	8,608(+2)
世帯数	6,465(±0)
8月1日現在 / ()は前月比	

義援金などの受付状況	
東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。	
受付金額	
義援金	8,827,137円
復興支援募金	5,098,735円
*平成24年7月31日現在	

地域の美化に貢献

■清掃ボランティア活動

七月十九日、京丹波町病院周辺の道路や駐車場などで松山地域の高齢者で組織する寿会（岡本勇会長）が清掃ボランティア活動を行いました。

同会は、地域の医療機関周辺の環境を良くするため、毎年この時期に清掃活動を行っており、作業には約百人が参加しました。

今回の作業は、当初七月十二日に予定していましたが雨天により延期となつての実施となり、朝から

健康づくりのきっかけに

■健康ウォーキング講座

六月二十七日、町内から二十六人が参加し健康ウォーキング講座が開催されました。

この講座は、「けんこう発見！ふるさと再発見！はじめようウォーキング！」と題し、健康長寿を目指した健康ウォーキングの普及と豊かな自然に囲まれた町内各地の魅力を再発見することを目的に実施。今回は道の駅丹波マーケスから市森地内の玉雲寺を経由し、琴滝までの往復約五キロメートルの区間

梅雨明けの強い日差しが差す中、会員らは地域の多くの人が日頃受診している病院の環境美化のために約一時間半、植え込み周辺の草引きや芝生の草刈に汗を流しました。

また、この活動に先立ち七月七日には、国道九号和田みどり橋交差点から京丹波町病院前までの町道で町女性の会瑞穂支部（寺谷すま子会長）の会員と社会福祉法人桜梅会が運営するグループホームの利用者など約四十人が美化作業を実施。町道周辺の草引きを行いました。

を専用のポールを使った歩行運動「フルディックウォーキング」を取り入れて行いました。

出発前には、今回のインストラクターである南丹市日吉町にあるスプリングスひよしの山本和彦さんが「足と足の中間にポールをつけて、押し出すように前に進んでください」と歩き方を説明。スタート時はボールの使い方に戸惑っていた参加者も、琴滝に着く頃にはノルディックウォーキングにも慣れ楽しそうに話しながら歩いていました。

今回は、秋頃に瑞穂地域で開催予定です。



琴滝に向かい軽快に歩く参加者（市森地内）



植え込み周辺の草引き作業をする会員（京丹波町病院・和田）

京丹波町のシンボル

【町の鳥】
うぐいす



【町の木】
イチヨウ



【町の花】
つつじ



編集後記

毎日暑い日が続きますが、元気にお過ごしでしょうか。

今年は「節電の夏」ということで、うちにグリーンカーテン、すだれによしずと「節電」を意識させられるものに自然と目が行きます。節電を意識しすぎて体調を崩されないよう、十分注意して暑い夏を元気に乗り切ってください。

今月は「交通安全」を特集しました。それぞれの団体の委員として活動されている方や個人で活動されている方からお話を聞きしましたが、皆さん立場は違えど活動に対する思いは一つ「交通事故のない安心・安全な京丹波町」。

今後も一層安全運転を心がけ、皆さんに町内の情報をお伝えするために取材に取り組みたいと思います。(T)